

大阪メトロは誠実に交渉せよ — メトロ本社へ抗議行動 —

分会結成は21年8月2日でした。結成当時は3名で旗揚げをおこない、会社の矛盾で不合理なおこないについて団体交渉を重ねてきました。その間、分会の活動に共感した仲間や、職場で孤立した方など色々な思いを持った仲間が集まり、今では8名になりました。

◆つじつまの合わない回答

昨年4月にも全港湾の組合員に対し不可解な人事異動があったが、今回問題となった人事異動は昨年10月におこなわれました。

その方は木作業主任という資格をもっており、資格を活用した業務をおこなっていました。そして現在の作業場が手狭になったことを理由に異動を命じられ転勤したが、その上司から聞かされた事実は全く違うものでした。

◆全港湾の組合員に対して

続く不可解な人事異動
会社に対し、当該組合員と旧勤務地の上司の音声記録やメール履歴を交渉担当者に提出しました。



分会は以前の不当配転の経験上、記録を残すように心がけていました。それを会社に提出し調査するよう要求をおこない人事異動撤回を求めました。

しかし、会社は調査に1ヵ月以上時間をかけた結果、回答は双方の認識の食い違いであり、業務命令に従うよう圧力をかけてきました。絶対に許される行為ではないので交渉は決裂し、行動権の行使を通告しました。

◆抗議行動へ

1月24日午後から西区の本社前で抗議行動をおこないました。大阪支部執行部をはじめ、一般分会員、そして神戸支部執行部の方、総勢30名ほどで抗議申入れをおこないました。

本社前でシュプレヒコールなどをおこない、本社内へ入ると会社担当者2名が待ち構えていました。

支部担当者が「決裁権のある人間を呼ぶように」話したが、頑なに「自分自身が担当者だ」と食い下がり、拳句の果てに組合員に向かって「やかましー」と怒鳴り声をあげ警察へ通報しました。



警察に対しては執行部の適切な対応の結果、警察から会社を説得する時間を作るよう提案され、組合は受諾しました。

しかし、数10分におよぶ説得もむなしく、会社は頑なな態度を変えることはありませんでした。警察のいうことにも従わない傲慢な態度こそ、この会社の本質であるのだと確信しました。

また、会社と3月7日、団体交渉をおこないましたが、会社は全港湾への弾圧をやめる気配はありません。今後、抗議行動をはじめあらゆる行動を考えていますので、その際は協力のほどよろしくお願いいたします。

(執行部 佐久原 智彦)



労働組合の声を聞かない経営陣!!

ウクライナ侵攻から2年 扇町公園に300人結集

2月24日、ロシアのウクライナ侵攻が2年経過しました。「ロシア侵略2カ年ウクライナに平和を! ガザ侵攻4カ月パレスチナに平和を!」として、12時から豊中にある在大阪ロシア連邦総領事館前で抗議をして、15時から扇町公園で約300名が結集し、集会とデモを開催しました。



労働組合の衰退と復活の兆し

反組合的使用者に鉄槌を!

3月9日、エルおおさかで、大阪ユニオンネットワークと大阪労働者弁護士団共催で、春闘決起集会の講演会として「労働組合の団体的行動の権利と限界」に参加しました。

労働側の立場で法学研究の第一人者で有名な西谷敏さんの講演は弁護士も多数参加していました。

講演の中で非常に興味深かったのはストライキ出来ない労働組合の現状でした。日本はなぜストライキが行われないのか、ということです。昨年、アメリカでは2023年のストライキ参加者数は前年に比べて2.4倍の約53万9千人に達し、日本と同様に労働組合の組織率は長年低迷が続いていますが、アメリカでは組合への期待と支持が高まっています。

しかし、日本では労働組合をつくるのが憲法上の権利であることを知っているのは全体の18%程度しかないと報告されました。

質疑の中では、ダイハツの不正行為を行っていたのも労働者であり、不正していることも分かっていたはずなのに、企業内労働組合が声を上げられなかったのか、ま

た、既存の労働組合にパワハラ防止の委員会があるにもかかわらず機能しておらず、外部の組合に相談し、一人で闘っているなどの報告がありました。

総行動に結集しよう!

毎年行われているユニオンネッ

(副委員長 吉本 賢一)



◇参加者の声◇

若い世代の意見ですが、年々デモなどの社会運動自体がマスメディアなどによって悪という風潮が強いイメージがあるのではないかと思います。ただ、他の国、特にアメリカなどではデモや労働組合の活動は盛んに行われている事が多いです。海外だとインフレが続いているのでこのような事になるのは必然だとは思いますが、日本はいまだにデフレが続いているのでこの差が何かしら関係がある

のかもしれない。

それと日本は派遣労働が増加している。仕事の多様化や外国人労働者の増加など、仕事に対する考え方がかなり変わっているのも原因なのかと思いました。

今後一つの職場に拘らず、転職していくという考え方が、大多数かもしれないので、労働組合の立場はかなり苦しいものになると個人的に感じました。

(梅南鋼材分会 川本 航平)